

2022年度 事業報告

社会福祉法人かわち野福祉会
第184回 理事会

新型コロナウイルスは2023年5月8日より5類感染症に移行しましたが、高齢者の重度化リスクを考えると職場での感染対策は怠れない状況です。年末から年始にかけてサ高住・特養でのクラスターは、驚くほどの速さで広がりを見せ幸いにも重症化しませんでした。入居者・ご家族、職員の負担は大きいものでした。

徐々に面会の枠を広げながら、外出時も気を付けながら感染防止対策を継続的に行っている状況です。従業員に対するPCR検査も5月分より打ち切られました。東大阪市施設連絡会より延長を要望書にして提出をしましたが、覆りませんでした。この3年間はイベントが行えず、それに代わるものをと工夫しましたが認知症の進行やADLの低下なども増えました。ボランティア喫茶の再開など徐々にイベントも開催できるように準備進めています。

法人全体の（資金収支計算書）事業活動収入は前年より5400万円増えました。事業活動支出では人件費が63.4%（前年の104.7%）、事業費は予算104.4%、前年より112.5%上回りました。事務費は予算102.9%超え、前年より104.3%増えています。事業活動費支出は前年より4356万円増です。今年度は後援会活動とグループ法人からの寄付を頂き剰余出すことができました。収入は前年度より増やしていますが、ベースアップした人件費や高騰した水光熱費や物価高等により費用が下期に予算修正したにもかかわらず大きく膨らんでしまいました。配食サービスでは職員体制が厳しい中、年間食数は12万食（107%）を超え収入も111%となりました。しかし、食材費高騰等により赤字幅は広がっています。

安心して住みつづけられる街づくりへの取り組み

サービスの選択や終末期の対応など人権を尊重した丁寧な取り組みは、様々な場面で対応に心掛け、協力医療機関とも相談しながら進めてきました。高齢者施設では判断ができる状況の時に、終末期の過ごし方や延命処置について聞き取っているご本人様の意思を尊重するようにご家族と相談し進めました。

今年度は3施設で施設長交代を行い、様々手順や契約書、職員配置など見直す機会がありました。4月に定昇に加えベースアップしたことで人件費が増えましたが、特養での離職は減り、サ高住での採用の機会が増えました。

・サ高住加納について、経営対策を講じ本来あるべき姿にすること、収支の見直しを行ったことなどから、5月から取り組み始めて年明け頃からようやく効果が出始めました。入居者様の意思やご家族との相談もそうですが、担当ケアマネさんとのコミュニケーションの重要性を再認識しました。重度化に対して受け入れを積極的に取り組んできましたが、介護職の喀痰吸引研修が修了後、本格的に受け入れを開始する予定です。